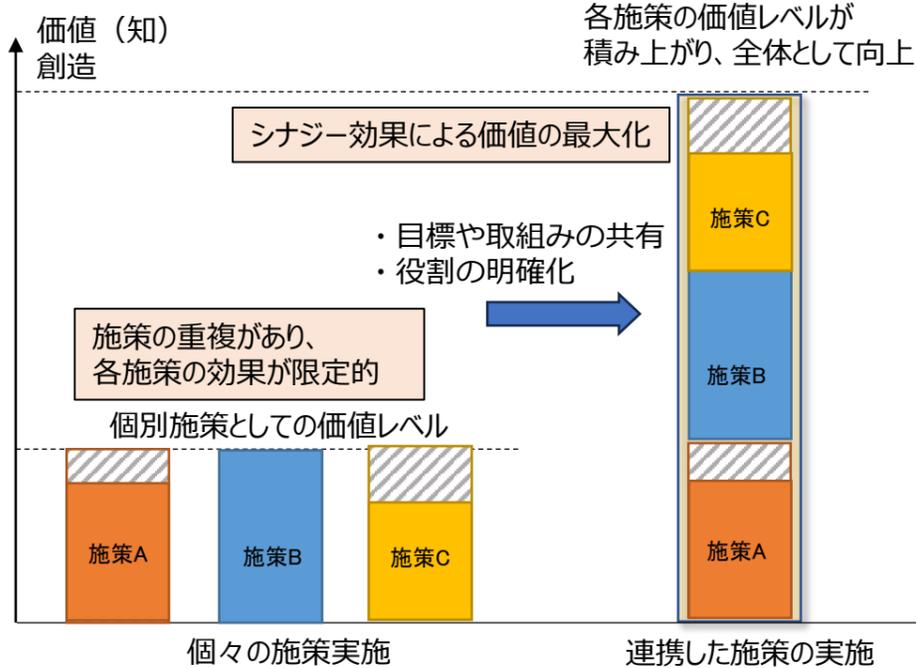


1. 提言の背景（提言書P2）

- 北陸新幹線敦賀開業により、北陸三県の県庁所在地が1時間以内で移動可能となり、日常行動圏となることで、北陸三県の時間的・心理的な距離は一層縮まる。このことは、北陸三県があたかも1つの大きな接続した都市圏として、地域力を向上させ、新たな価値を創造する地域に発展するチャンスである。
- 敦賀開業により、北陸が全国的に注目を集める絶好の機会を捉え、北陸三県が連携して、地域力を向上させるための具体策を提言する。
- 能登半島地震に関しては、北陸三県が連携して復興に取り組み、一体となって発信していくことの意義も高まっているため、能登の強みを活かした地域づくりに関する具体策を提言する。

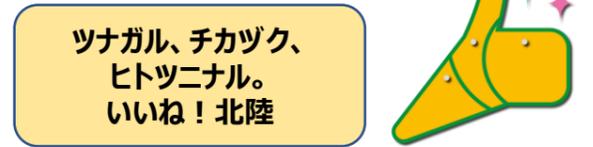


2. 三県連携の考え方（提言書P17）



3. 目指す地域の姿（提言書P18）

北陸新幹線敦賀開業を契機として、
富山県・石川県・福井県が北陸新幹線により「ツナガル」
↓
三県の人・モノ・情報の距離が「チカツク」
↓
三県が「ヒトツニナル」
↓
北陸が多種多様な新たな価値「いいね！」を創造する地域に進化



北陸新幹線の敦賀開業は、富山・石川・福井が「ツナガル」ことで、時間的にも心理的にも距離が一層「チカツク」ことができ、三県が「ヒトツニナル」好機である。北陸で多種多様な「いいね！」が生まれ、新たな価値を創造できる地域になるために必要な施策を提言する。

4. 提言内容（提言書P28～51）

	項目	各県・地域の取組み	三県連携による取組み	能登復興への取組み
産業面	①産業の魅力の発信	産業観光の充実 産業観光を通じた企業や産業の魅力PR、認知度向上。	三県合同イベントの開催 毎年各県で開催されている大規模な産業展示会の三県合同開催。	・能登が有する産業や技術と他地域企業とのマッチング ・農林水産物・加工品の高付加価値化
	②技術の集積を活かした連携強化	情報や知見の共有によるカーボンニュートラル先進地化 アルミを中心としたサーキュラーエコノミーや、モーダルシフトの推進。	人材育成等を協働できる様々な連携の構築・強化 県単位にこだわらない多様な人々や団体が参画、協働できるプラットフォームの構築。	
	③域内経済循環の活発化	大型テーマパーク、コンサートホール、外資系ホテル等の誘致 地域内外の新たな人の流れを作る起爆剤や、若者の流出抑制に寄与。	並行在来線の連携による利便性拡大 「北陸3県2Dayパス」やサイクルトレインのような連携企画の推進。	
観光面	①観光地としての「北陸ブランド」の構築	サステナブルツーリズムの充実 CO2を排出しない北陸新幹線の利用や、宿泊施設のカーボンフリー化等、環境に優しい旅行先としてのブランド構築。	三県共通資源のブランド化 「食」、「温泉」等、三県に共通する観光資源のブランド化。	・地域資源を活用した能登でしかできない体験の提供 ・ボランティア支援と観光を融合させた新しい形のツアー造成
	②シームレスな移動と移動手段のコンテンツ化	移動手段のコンテンツ化 観光列車、恐竜バス、道の駅スタンプラリー等の推進。	アプリ等を活用した域内での利便性の向上 移動手段、観光、食事、宿泊等の情報、予約をワンストップで提供するアプリの開発。	
	③長期的・効果的な観光戦略づくり	アミューズメント施設の誘致 その場・その日にしか体験できない「トキ消費」を喚起する魅力的な体験施設の誘致。	データ活用による効果的な観光戦略の立案 各県が把握している観光データの連携による、北陸全体として効果的な観光戦略の立案。	
暮らし面	①北陸への愛着や誇りを持てるきっかけづくり	北陸地域への理解を深める機会づくり 地域課題解決コンテストの開催、北陸に住む人が実際に感じている本音を発信する場の創出。	三県の一体感を表現するシンボルの創設 各県のプロスポーツチームの統合拡大、北陸〇〇記念日の創設。	・デジタルを活用した住民サービスの整備 ・多様な関わりによる地域コミュニティの形成
	②学び、働き、暮らしやすい地域づくり	大学入学定員の地域枠設定・拡大、奨学金の活用 地域枠の要件を県単位から三県に拡大。 (卒業後は出身大学所在の県に就職→三県のいずれかの県に就職)	県をまたいだ広域採用と先進的な働き方の推進、行政サービス提供 通勤・通学圏の拡大を活かした広域採用と、通勤負担軽減に資するリモートワークの推進。 北陸と緩やかにつながる「デジタル北陸圏民制度」の創設。	
	③域内の人が楽しめる魅力的な地域づくり	魅力的な店舗、世界各国レストランの誘致 地域外に向けていた消費を地域内に回帰・循環させるとともに、地域外から人を呼び込む。	三県民が一緒に楽しめるイベント・設備の充実 マラソン大会等の各県開催イベントの横連携によるイベントのブラッシュアップや、ソフト面も重視した設備の有効活用。	